平成 17 年 10 月 7 日

報道関係各位

東京電力株式会社
中部電力株式会社
関西電力株式会社
九州電力株式会社
日本原子力発電株式会社

第 11 回返還予定のガラス固化体について

(164 本のうち 96 本)

第 11 回返還予定のガラス固化体については、164 本を青森県六ヶ所村にある日本原燃株式会社の廃棄物管理施設に搬入する予定です。そのうち、68 本の内容については本年 8 月 1 日に荷主電力会社よりお知らせしておりますが、本日、東京電力株式会社、中部電力株式会社、関西電力株式会社、九州電力株式会社及び日本原子力発電株式会社の 5 社に関わる残りの 96 本分についての概要を別紙の通りお知らせします。

なお、第 11 回返還予定本数について、8 月 1 日には 144 本とお知らせいたしましたが、関係者間であらためて搬出作業工程等を調整した結果、20 本を追加して 164 本としたことから、今回は追加分を含めた残り 96 本についてお知らせするものです。

なお、事業所外廃棄確認申請につきましては、仏国での確認が終了した後、原子力安全基盤機構に対して申請を行うこととしており、申請後すみやかにお知らせする予定です。

以 上

別紙：返還予定ガラス固化体について

返還予定ガラス固化体について

今回返還予定のガラス固化体は、使用済燃料の再処理に伴い発生する高レベル放射性液体廃棄物をほうけい酸ガラスとともに固化し、貯蔵時の荷重及び取扱いに伴う落下等に耐える強度を有するステンレス鋼製容器に閉じ込めたものである。

今回返還予定のガラス固化体の概要を以下に示す。

- (1) 所有者及び数量
東京電力株式会社	22本
中部電力株式会社	20本
関西電力株式会社	21本
九州電力株式会社	10本
日本原子力発電株式会社	23本
- (2) 返還元 : 仏国 COGEMA
- (3) 製造時期 : 1993年 ~ 2002年
- (4) 高レベル放射性液体廃棄物の起源 : 軽水炉用ウラン燃料または、軽水炉用ウラン燃料及び軽水炉用ウラン燃料以外の燃料
- (5) 寸法 : 外径：約 430 mm、高さ：約 1,340 mm
- (6) 容器材質 : 仏国規格 Z15 CN24 13 (JIS SUH309 相当)
- (7) 重量 : 472 kg ~ 516 kg
- (8) 発熱量 (平成 17 年 10 月 7 日時点) : 1.3 kW/本 ~ 1.8 kW/本
- (9) 放射性物質の種類毎の放射能濃度 (平成 17 年 10 月 7 日時点)
・ α 線を放出する放射性物質	:	1.7×10^{14}	~	2.9×10^{14}	Bq/本
(放射性核種濃度) ^{241}Am	:	7.3×10^{13}	~	1.3×10^{14}	Bq/本
^{244}Cm	:	6.6×10^{13}	~	1.9×10^{14}	Bq/本
・ α 線を放出しない放射性物質	:	1.5×10^{16}	~	2.0×10^{16}	Bq/本
(放射性核種濃度) ^{90}Sr	:	2.7×10^{15}	~	3.7×10^{15}	Bq/本
^{90}Y	:	2.7×10^{15}	~	3.7×10^{15}	Bq/本
^{106}Ru	:	4.1×10^{10}	~	6.3×10^{13}	Bq/本
^{106}Rh	:	4.1×10^{10}	~	6.3×10^{13}	Bq/本
^{125}Sb	:	7.5×10^{11}	~	2.9×10^{13}	Bq/本
^{134}Cs	:	1.1×10^{13}	~	4.8×10^{14}	Bq/本
^{137}Cs	:	4.2×10^{15}	~	5.6×10^{15}	Bq/本
$^{137\text{m}}\text{Ba}$	:	4.0×10^{15}	~	5.3×10^{15}	Bq/本
^{144}Ce	:	検出限界値未満	~	3.2×10^{13}	Bq/本
^{144}Pr	:	検出限界値未満	~	3.2×10^{13}	Bq/本
^{154}Eu	:	6.1×10^{13}	~	1.6×10^{14}	Bq/本

以上